

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ジョイコン NEWS ♪

第51号 (2021年12月)

既にお知らせしている通り、私たち「大倉山ジョイフルコンサート」は第55回演奏会(2022年3月20日 出演: 葵トリオ ピアノ三重奏)より公演を再開する予定です。

会場を大倉山記念館ホールから港北公会堂に移して最初の公演であり、また新型コロナウイルス感染症対策にも万全を期すため、慎重に準備を進めているところです。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」(第51号)をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】次回コンサートのご案内
 - ◆第55回コンサート
- 【2】今後の予定(先取り情報)
 - ◆第56回コンサート
- 【3】“のん”の音楽雑記帳♪『ショパンのピアノ曲』

【1】次回コンサートのご案内

◎第55回演奏会(2022年3月20日)より再開予定です。
なお、第54回演奏会(2022年1月16日)は中止(延期)します。

■■第55回コンサート■■

- ◇2022年3月20日(日曜日)14:00開演
- ◇出演: 葵トリオ(ピアノ: 秋元孝介、ヴァイオリン: 小川響子、チェロ: 伊東裕)
- ◇プログラム(予定)
 - ◆モーツァルト: ピアノ三重奏曲 ハ長調 K. 548
 - ◆リーム: 見知らぬ土地の情景Ⅲ
 - ◆シューベルト: ピアノ三重奏曲第1番変ロ長調 D898
- ◇料金: 大人・高校生2,000円、中学生以下1,000円
- ◇会場: 横浜市港北公会堂(東急東横線 大倉山駅より徒歩7分)
- ◇予約受付開始: 2022年1月17日(月曜日)午前9時より

第55回ジョイフルコンサートは『葵トリオ リサイタル~ミュンヘン国際音楽コンクール優勝 ドイツ拠点の国際派常設アンサンブルならではの芳醇な響き』と題して、お届けします。

- モーツァルト: ピアノ三重奏曲 ハ長調 K. 548

☆モーツァルトの晩年

モーツァルトはどなたもご存じの偉大な作曲家です。
余りにも膨大になってしまうので、この曲が作られた晩年を取り上げたいと思います。

晩年と言っても35歳で亡くなったのでとても若いです。
天才はある意味破滅型の人生を送ってしまうのかもしれない。

幼いころから神童と呼ばれ、父親と一緒に各国を演奏旅行をしていましたが、晩年は経済的に困窮してしまいます。

モーツァルト自身の素行の悪さ、浪費癖、仕事に恵まれなかったことによると考えられます。

モーツァルトの才能に恐怖を感じた、宮廷楽長アントニオ・サリエリ等のイタリアの音楽貴族達が裏で画策してモーツァルトの演奏会を妨害したとの噂もあります。

事実がどうかはわかりませんが、1984年に公開された映画「アマデウス」にサリエリの告白という設定で描かれています。
ご覧になった方も多いと思います。

いろいろ確執があったのかもしれませんが。

経済的に困っていたモーツァルトは度々盟友のプフベルクに借金依頼の手紙を送り、プフベルクも金銭的に援助しました。

プフベルクから借りたお金で、モーツァルトは引っ越しをして、新居で気分も新たに3か月と少しの間に精力的に室内楽とオーケストラの大曲を7曲作曲しました。

その中の1曲が今回演奏されるピアノ三重奏曲 ハ長調 K548(1788年)です。

1791年モーツァルトは35歳で亡くなりました。
お葬式はとても簡素で、お墓の場所も正確にはわかっていません。
当時のモーツァルトへの世間の評価が余りにも低すぎることを物語っていて辛いです。

モーツァルトの死後妻のコンスタンツェが後継者から寄付を集めるなどして、借金を返済しました。
それは称賛に値することだと思います。

☆ピアノ三重奏曲 ハ長調 K. 548

第1楽章 Allegro ハ長調 4/4 ソナタ形式
第2楽章 Andante Cantabile ヘ長調 3/4 ソナタ形式
第3楽章 Allegro ハ長調 6/8 ロンド形式

3楽章からなり、演奏時間約20分ぐらいの大作です。

実生活は経済的に厳しかったり、前年の1787年に父親が亡くなるなど、苦しいはずですが、そのようなことは感じさせない明るく軽やかなモーツァルトらしい曲です。

以前どこで読んだか忘れましたが、ベートーヴェンの作曲の仕方はとても論理的で、この音しかないと作り方をしますが、モーツァルトは本当に天才で曲を作る時はもう頭の中に完全に楽譜が出来上がっていて、それをただ写すだけと書いてあった記憶があります。

この曲を作る時の精神状態はあまり関係ないのかもしれないと思うと、これも本当のことだと思います。

ようやく大倉山ジョイフルコンサートが再開できることになりました。
国際的に活躍されている「葵トリオ」の方達に演奏していただけることもとても嬉しく思います。
ぜひお楽しみになさってください。(A.N)

【2】今後の予定（先取り情報）

■■第56回コンサート■■
◇2022年5月15日（日曜日）14時開演
◇出演：黒岩航紀（ピアノ）

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

【3】“のん”の音楽雑記帳♪『ショパンのピアノ曲』

「今年ほどショパンの曲をたくさん聴いた年はない」と思われた方も多いのではないのでしょうか。
今回はショパンのピアノ曲を2曲ご紹介します。

◆『ラルゴ 変ホ長調 遺作』

今年のショパンコンクールの3次予選で反田恭平さんが『ピアノソナタ第2番「葬送」』と『英雄ポロネーズ』の間にこの曲を弾いたことで一躍注目されることとなりました。聖歌『神よ、ポーランドをお守り下さい』を基にした美しいコラール風の作品です。ショパンが15歳の頃、オルガンを弾いていた教会でミサの最後にこの聖歌を歌う習慣がありました。ショパンはこの旋律を覚えていて、パリに出てから故郷を想いながらこの旋律に和声付けをしました。確かなことはわかりませんが、ショパンはこの曲を「ポーランド人の祈り」と呼んで、クスティヌ侯爵の居間で即興のように演奏していたという記録があります。ショパンの死後約90年たった1938年にこの楽譜は出版されました。現在もワルシャワの（ショパンの心臓が収められている）聖十字架教会前の道路にある大理石のベンチのボタンを押すとこの曲が流れてくるそうです。
これからは、コンサートのアンコール等で聴くことがあるかもしれませんね。

◆『幻想ポロネーズ』

ショパンが36歳の時の作品。最後の大作で、全作品の中で最高傑作の1つとされています。この曲以降は、数曲のマズルカ、ワルツ、ノクターンしか作曲されていません。

『幻想ポロネーズ』を聴いた友人のリストは（その頃2人は仲が悪くなっていたせい）この曲を「芸術を通りこしてあまりに感傷的すぎる。ついにショパンは頭がおかしくなったのではないか。」と言っていました。実際、この曲はしばらくはあまり評価されず、人気が出始めたのはルービンシュタインやホロヴィッツ等の大ピアニストがレパートリーとして弾くようになってからなので忘れられていた曲といえるかもしれません。

ポロネーズというジャンルに分類されているものの原題の直訳のように「ポロネーズ風幻想曲」といった方がニュアンス的に近いです。和音と大胆なアルペジオの序奏から始まり、4つの主要主題で構成されています。

ポロネーズのリズムも出てきますが、ノクターンのような雰囲気、バラードのような抒情性、即興曲のような自由さで頻りに転調していきます。

最後のコーダは「ショパンの魂の最後の輝きである」と表現する人もいるくらい、まさに最後の力を振り絞ったような感じです。

ジョルジュ・サンドとも別れ、体力も落ち、自らの内面を深くのぞきこんだ時のこの作品は表現しがたい様々な思いがちりばめられているようで、しかし、それらを超越して彼岸に向かっていくような本当に幻想的な響きにあふれています。

今年、「第一線で活躍するピアニストが選ぶ好きなショパンの曲」というアンケートで第1位の曲に選ばれました。

全盛期の煌びやかな作品もすてきですが、晩年にショパンが到達した内面性の深い世界もよいものです。（のん）

【編集後記】

いつの間にか師走ですね。

クラシック演奏会はコロナ禍で大きな影響がありました、
「大晦日」のジルヴェスター・コンサートは各地で開催されるようです。

その際、「今年がメモリアルイヤーの作曲家は？」というのもあります。

昨年は何といてもベートーヴェン生誕250年でした。

今年2021年は？というと、アルビノーニ（生誕350年）、ピアソラ（生誕100年）、サン＝サーンス（没後100年）、ストラヴィンスキー（没後50年）でしょうか。

さて、来年2022年は？調べてみると、新しい“発見”があるかもしれません。（お）

※このメールマガジンは、

大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で
「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら
<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

■メールマガジン♪ジョイコン NEWS♪の感想などお寄せください。

<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

.....
発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会
Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>
携帯電話 080-8424-5108
URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>
.....